

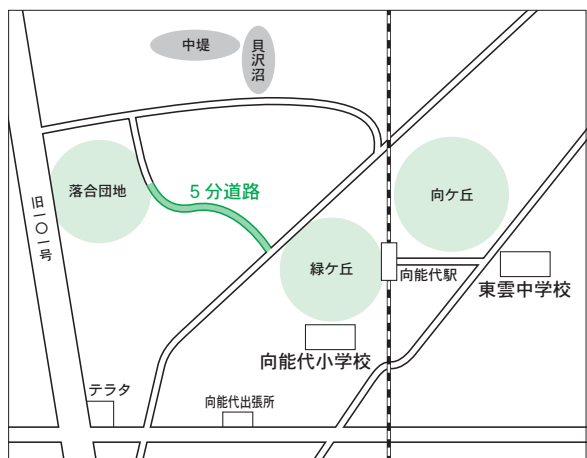
ケース2 安全な 通学路

危険な通学路を住民・PTA・市の3者による協働で解消を図る

5分道路を知ってますか？

向能代小学校の通学路、通称5分道路は、落合団地からオオタカランバールの裏を通って緑ヶ丘へ抜ける農道です。

道路脇に高い木が立ち並び、新緑の時期を過ぎると、葉が生い茂り、昼でも薄暗い道路です。ここが落合方面から向能代小学校への通学路となっていて、約90人の児童が毎日通っています。大きな通りに比べて人通りも少なく、



不審者の心配もありました。

また、東雲中学校の生徒は、貝沢沼の横の道路を通っていましたが、この道路は車の交通量が多く、危険性が指摘されていました。

話し合いで問題点を洗い出し

そこで、向能代小学校PTA、東雲中学校PTA、落合団地自治会、落合自治会、向能代小学校、東雲中学校、市役所が集まって、問題点を洗い出し、それに対する対応などを話し合いました。

その中で出された主な問題点は、

- ①道路が舗装されていない。
- ②木が生い茂り、昼でも薄暗い。
- ③人通りが少なく、不審者が心配。
- ④防犯灯が少なく、冬の夕方は通りが暗い。
- ⑤板塀が壊れているところがあり、子供たちが入っていかないか心配。

また、東雲中学校の生徒は、自転車で通学しており、貝沢沼の横の道路を通っていましたが、この道路には歩道がなく、通学時間には車の通行が多く、

危険性が指摘されていました。

これらの問題はいずれも、市が道路を舗装したり、防犯灯を設置するだけでは、児童生徒の安全を確保することは不可能でした。

それぞれの役割を決め、実践

そこで、住民の皆さんと話し合って、次のような対応をすることを検討しました。

- ①市は17年度中に道路を舗装
- 東雲中学校で、生徒にアンケートをとったところ、5分道路が自転車を通れるように舗装されれば、そちらを通るとの回答がほとんどであったことから、道路を舗装することにしました。
- 道路を舗装することにより、中学生も通学路に利用することになり、人通りが増えると同時に、中学生も車の通らない道路を通学することができるようになります。
- ②地権者と企業の協力により道路脇の樹木を伐採

当初、市で最低限の枝払いをする予定でしたが、㈱東北電力と道路周辺の地権者の協力により、道路から3層程

度までの樹木を伐採することができました。

伐採により、以前より明るく見通しの良い道路になりました。今後は、PTAが草刈りをして、良好な環境を維持していくことにしています。

③市が防犯灯を設置

防犯灯の間隔がある箇所については、市が防犯灯を設置して、夜でもある程度明るい道路にすることにしています。

④地域で防犯パトロールを開始

不審者対策としては、大人の目が光っていることが最も大切なことから、落合団地自治会と向能代小学校PTAが協力して下校時の防犯パトロールを実施することにしました。防犯パトロールの用具は、秋田県の補助制度を利用してそろえました。

⑤PTAが板塀の補修を検討

所有者の承諾を得て、PTAで板塀の補修ができないか検討することにしました。

この問題は、市が道路を舗装したり、防犯灯を設置するなど設備環境の整備を行っただけでは、子供たちの安全を守ることはできませんでした。PTAや地元自治会の皆さんの防犯パトロールや草刈りなどの活動があつて初めて、子どもたちの通学の安全が確保されました。